

都民意識調査(案)

設問No.	分野	設問内容	備考	(参考) 前回調査時
1	基本情報	・ 年齢		
2		・ 性別		
3		・ 住所（区市町村）	改	・ 住所（都道府県）
4		・ がん経験者か	新	
5		・ 身近にがんに罹患した人の有無	新	
- 2		・ 「有」の場合：回答者との関係	新	
6	基礎知識	・ がんについての考え （強く思う、多少思う、あまり思わない、思わない、から選択）		
		ア がんは治る病気である		
		イ 痛みは取り除けない		
		ウ 自分はがんにはならないと思っている		
		エ 多くのがんは早期発見により治療が可能である		
		オ がんにならないためには生活習慣の改善が重要である		
		カ がん罹患者は40歳代頃から増え始め、年齢と共に増加する	新	
		キ がんになったら働くことはできない	新	
		ク がんは高額な医療費がかかる	新	
- 2	・ その他がんについて思うこと（自由記載）			
7	予防	・ がんの原因と思う項目（選択上位3つ） ①添加物や農薬、②環境ホルモン、③たばこ、④大気汚染、 ⑤細菌・ウイルス、⑥かたよった食生活、⑦運動不足、⑧肥満、 ⑨職場での有害物質接触、⑩飲酒、⑪ストレス		（選択肢）「魚や肉の焼け焦げ」削除
8		・ がんの危険性を高めると思う項目		
9	早期発見	・ がん検診は何歳から受ければよいと思うか （胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん）		
10		・ がん検診を受診する際、どのような機会を受診したいか		
11		・ 要精密検査を受けることが大切であることを知っているか	新	
			削	・ 精度管理の取組を充実することは必要だと思うか
			削	・ 都ホームページ「受けよう！がん検診（東京都がん検診支援サイト）」のデータを参考にするか
12		・ 検診についてどのような情報が得られるとよいと思うか		

設問No.	分野	設問内容	備考	(参考) 前回調査時
13	肝炎ウイルス	・ 肝炎ウイルスについての考え (強く思う、多少思う、あまり思わない、思わない、から選択)	新	
		ア 肝炎から肝硬変、肝がんになる可能性がある		
		イ 肝炎になっても自覚症状はない		
		ウ 肝炎になったら治らない		
		エ 肝炎は、咳、抱き合う及び食器の共有など通常の社会生活では感染しない		
		オ 近年、若年層を中心に性感染等によるB型肝炎の感染が増加している		
14		・ 肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか		
15		・ お住まいの区市町村で肝炎ウイルス検査を受けることができるのを知っているか		
16	・ 受けたことがあるのはどの検査か			
17	・ どのような機会に検査を受けたいか			
18	・ どこで検査を受けたか			
19	・ なぜ、検査を受けないか			
20	がん教育	・ がん教育を始める時期として、ふさわしいと思う時期	新	
21		・ がん教育を行うのにふさわしいと思われる場所(家庭、学校、職場、病院、その他)		
22		・ がんを予防するための教育は必要であると思うか		
23	医療	・ 自身や家族ががんに罹患した時、どういった医療環境が整っていることが望ましいと思うか	新	
24		・ がん医療は以前よりも進歩していると感じるか		
25		・ がん拠点病院、協力病院という制度を知っているか		
26	緩和	・ 緩和ケアのイメージ	改削	・ 治療開始時からの緩和ケアを望むか、望まない場合はその理由 ・ 自身又は家族が緩和ケアを受けたことがあるか(受けているか)
		・ 緩和ケアを受けたいと思うか、望まない場合はその理由		
27		・ 自分なら人生の最終段階(終末期)をどこで過ごしたいか		
28	小児がん	・ 成人のがんと異なり、希少がんであること、晩期合併症があること、長期フォローアップが必要であることを知っているか	新	
29	相談	・ がん相談支援センターを知っているか	新	
- 2		・ 「知っている」場合：その病院で治療を受けている患者・家族でなくても利用できることを知っているか	新	
30	情報	・ 「東京都がんポータルサイト」を知っているか、見たことがあるか	新	
31		・ 普段、様々な情報を入手する際に、どのような媒体を活用するか	新	
32	がん登録	・ 「全国がん登録」を知っているか	改	・ 「地域がん登録」を知っているか
33		・ 全国がん登録を進めることにより期待すること	改	・ 「地域がん登録」の情報は有益だと思うか
34		・ がん対策に関する自由意見		